Model SA8260 取扱説明書

Super Audio CD Player

CLASS 1 LASER PRODUCT
LUOKAN 1 LASERLAITE
KLASS 1 LASERAPPARAT

マランツのスーパーオーディオCDプレーヤーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所／サービスセンターにお問い合わせください。

付属品

製品を箱から出したらまず下記の付属品がそろっているか確認してください。

- リモコン（RC8260SA）（乾電池付属 単３×２）……１個
- 電源コード……１本
- オーディオケーブル（赤・白）……３組
- リモート接続ケーブル（オレンジ）……１本
- 取扱説明書（本書）……１冊
- 保証書（箱に貼付）……１枚

目　次

はじめに……3
　本機の特長……3
　スーパーオーディオ CD について……3
　CD-RW ディスク再生について……3
　本機で再生できるディスクについて……3
　安全上のご注意……4
ご使用の前に……7
　ディスクの取扱い方……7
　設置場所……7
　使用上の注意……8
　リモコンの使用について……8
　電池の入れ方……8
　各部の名称と使い方……9
接続方法……12
　2 チャンネル（アナログ／デジタル）ステレオアンプ／ AV アンプへの接続……12
　アナログマルチチャンネルアンプ／ AV アンプへの接続……13
　SACD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置……14
操作方法……15
　電源コードの接続および電源を入れる……15
　通常の演奏のしかた……15
　サーチ／スキップ……17
　リピート演奏……17
　ランダム演奏……18
　プログラム演奏……18
　AMS 演奏……19
　CD-TEXT 情報の表示について……20
　TEXT について……20
　タイマープレイ……21
　フィルタースイッチについて……21
故障とお考えになる前に……22
仕様……23
その他……24

はじめに

本機の特長

本機はスーパーオーディオCDの持つサウンドパフォーマンスを高度に再生します。主に次のような特長があります。

- DEM（ダイナミック エレメント マッチング）方式スーパーDAC（CS4397）によりDSD/CD信号を高精度に高音質アナログ信号に変換するD/Aコンバーター部
- ディファレンシャル入力のHDAMによるローノイズ低歪フィルタ回路と高速電流帰還型送り出しアンプ
- ディスクタイトルやトラックタイトルなど、スーパーオーディオCD/CDのTEXT（テキスト）表示対応
- CD-R/CD-RWディスク再生対応

スーパーオーディオ CD について

スーパーオーディオCD規格はダイレクト・ストリーム・デジタル（Direct Stream Digital）（DSD）技術に基づいています。
このダイレクト・ストリーム・デジタル・フォーマットは、従来のオーディオCDよりも64倍のサンプリング周波数を有する１ビットシステムから構成されています。
それによって、100kHz以上におよぶ周波数範囲及び可聴周波数帯全域でダイナミックレンジ120dBの素晴らしいサウンドが生まれます。
可能な限り多くの周波数分布をミックスすることにより、可聴域のオーディオ情報がよりいっそう自然に聞こえるようになります。
つまり、すべての可聴周波数は音源から発せられる周波数範囲内に組み込まれます。
これによって、リアリティーのある音場が再現されます。

CD-RW ディスク再生について

本機では従来の音楽CDやCD-R（Recordable）に加え、CD-RW（ReWritable）ディスクの再生も可能です。

- CD-RやCD-RWの再生では必ずTOC* が正しく記録されていることが必要です。CDレコーダーではTOC情報を書き込むことをファイナライズ（Finalize）といい、この作業が正常に完了していないディスクは、普通のCDプレーヤーでは音楽CDとして正しく認識されず再生することができませんので十分ご注意ください。詳しくはCDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

  * TOC（トック）とはTable Of Contentsの略で、ディスクの総曲数や総演奏時間などの目次情報のことです。

- 再生できるのは音楽用のCD-DAフォーマットで記録されたディスクのみです。パソコン用CD-ROMなどデータが記録されたディスクは再生しないでください。
- CD-RWディスクを再生する場合、プレーヤーの設定を一部変更するため、音楽CDやCD-Rに比べTOCの読み込みに若干時間がかかることがあります。

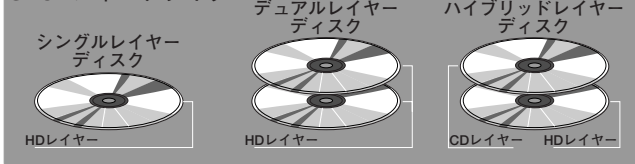
本機で再生できるディスクについて

1. スーパーオーディオ CD

Stereo **Multi-ch**

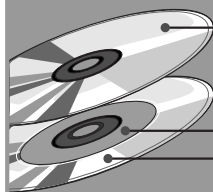
スーパーオーディオ CDには、以下の3つのタイプがあります。

- **シングルレイヤー・ディスク**
- **デュアルレイヤー・ディスク**
- **ハイブリッドレイヤー・ディスク**

SACDディスクタイプ

また、各々のタイプは、情報が記録される２つの領域、

- **高音質ステレオエリア**
- **高音質マルチチャンネルエリア**

を持つことができます。

- **シングルレイヤー・ディスク**
  高音質ステレオと高音質マルチチャンネルの両方の情報エリアを持つことができます。
- **デュアルレイヤー・ディスク**
  高音質ステレオと高音質マルチチャンネルの両方の情報エリアを持つことができますが、第二レイヤーの存在によって２倍の情報量をディスクに記憶することができます。
- **ハイブリッドレイヤー・ディスク**
  高音質ステレオと高音質マルチチャンネルの両方の情報エリアを持てるだけでなく、第二レイヤーにはCDレイヤーも持てるため、CDプレーヤーでの再生が可能となります。

記録されるトラック数は、レイヤーによって違うことがあります。これは本体の表示窓に表示されます。

2. オーディオ CD（CDDA）

オーディオ CDはミュージックトラックのみで構成されています。

はじめに（安全上のご注意）

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△ 記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

警告

電源プラグをコンセントから抜け

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

はじめに（安全上のご注意）

警告

● 雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● この機器のディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

● この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

● この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

● 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

● 万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。

● 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

● この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注意

● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

はじめに（安全上のご注意）

注 意

- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。
- レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス端子 ⊕ とマイナス ⊖ 端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- この機器の上に5kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

- オーディオ機器等を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。又接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。
- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ５年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

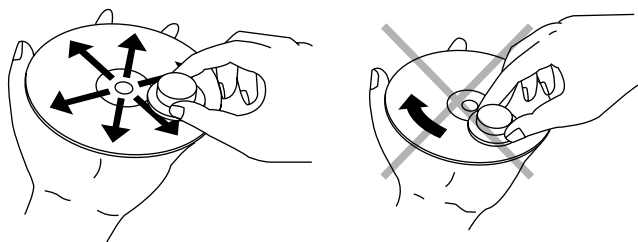
- 長期間使用しないとき、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用の前に

ディスクの取扱い方

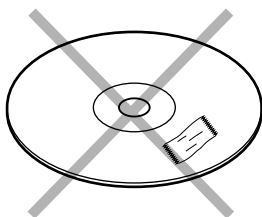
★ ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。

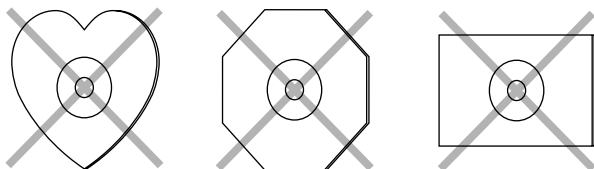
★ ディスクの表面はいつもきれいに

ディスクの表面をふく時は必ず専用のクリーナーを使用して図のようにふいてください。

● 放射状方向にふいてください。

● 円周方向には、ふかないでください。

★ ディスクのレーベル面に紙やシールを貼らないでください。

ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がした痕があるものはお使いにならないでください。そのままプレーヤーにかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

★ 特殊な形のディスクは使用しないでください。

ハート型、八角形、名刺型など特殊形状のディスクは使用しないでください。取り出せなくなったり、機器の故障の原因となることがあります。

★ ディスクを大切にするため次のような場所に置くことは避けてください。

- 直射日光を受けたり、暖房器具などの発熱体に近い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 窓ぎわで雨などかかるおそれのある場所

★ ディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。

設置場所

本機を長くご使用いただくために、次のような場所には設置しないでください。

- 直射日光を受けたり、暖房器具などの発熱体に近い場所
- 風とおしが悪く、湿気やホコリの多い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所
- 窓ぎわで、雨などがかかるおそれのある場所
- その他、特に温度の高いところ
- アンプ等の発熱の多いものの上において長時間使用しますと、プレーヤーのピックアップ部分に使用しているレーザーダイオードが熱の影響を受けやすくなりますので、アンプ等の発熱の多いものの上に置いて使用することは避けてください。

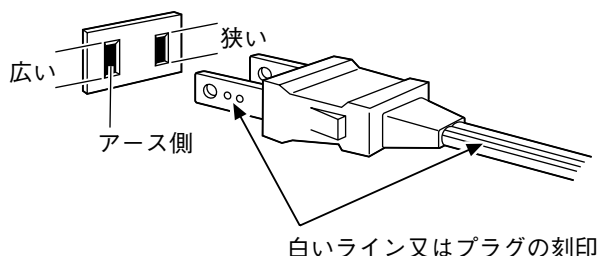
★ ご使用いただく電源電圧・周波数

- 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- 電源周波数は、50Hz 地域、または 60Hz 地域どちらでも使用できます。

★ 電源コードの取扱い

- 濡れた手で触れないでください。
- 電源コードは、かならずプラグを持って抜いてください。
  コードを強くひっぱたり、折曲げたりしますと、コードがいたみ、感電や火災の原因になります。
- お出かけ前には、かならずプラグを抜く習慣をつけましょう。

★ 電源コードの極性

- 家庭用電源コンセントの幅の広い側はアース側とされ、通常は地面に接続されています。
  極性を合わせなくても動作に差し支えありませんが、図のように電源コードの白いライン(又は白いラインの無いものはプラグの刃に刻印の有る方)をアース側に接続することで音質が向上します。しかし、ご家庭の環境によっては逆に接続した方が音質的に良いこともありますので、ご確認の上、最適な方向に接続してください。

★セット内部の修理

- 注油しますと故障の原因になりますのでさけてください。
- 専門知識を持つ技術者以外の方は、ピックアップ部分及びセット内部の修理は行わないでください。

ご使用の前に

使用上の注意

- 冬､暖房のきいた部屋の窓がくもったり水滴がついたりします。この現象を結露といいます。スーパーオーディオCDプレーヤーは、光学レンズを使用していますので次のような場合に結露が起きることがあります。

  - 暖房開始直後の部屋
  - 湿気が多い部屋
  - 寒いところから、急に暖かい部屋に持ち込んだとき

  このようなときは、曲数の読み込みができず、プレーヤーが誤動作することがありますので30分位待ってから使用してください。

- 本機がチューナーやテレビに妨害を与えることがあります。このようなときは、チューナーやテレビとの距離を離して設置してください。
- アナログ式レコードに比べ非常にノイズが少なく、演奏がはじまるまでノイズは殆ど聴き取れません。アンプのボリュームを上げすぎますと他のオーディオ機器を破損することがありますので、ご注意ください。
- 本機はスーパーオーディオCDまたは従来の音楽CD専用のプレーヤーです。パソコン用のCD-ROMや、ゲームCD、ビデオCD、DVD（ビデオ／オーディオ）、DTS-CD、などは再生できません。

万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用下さい。

リモコンの使用について

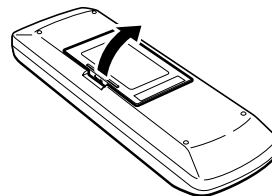
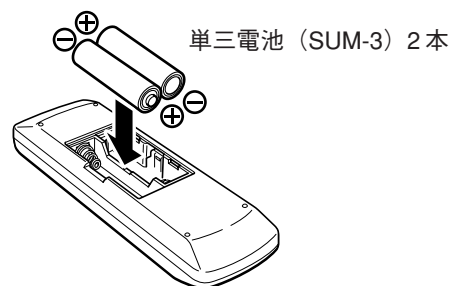
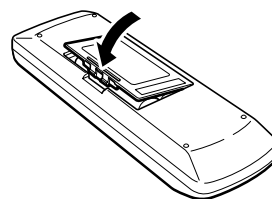
乾電池の取り扱い方

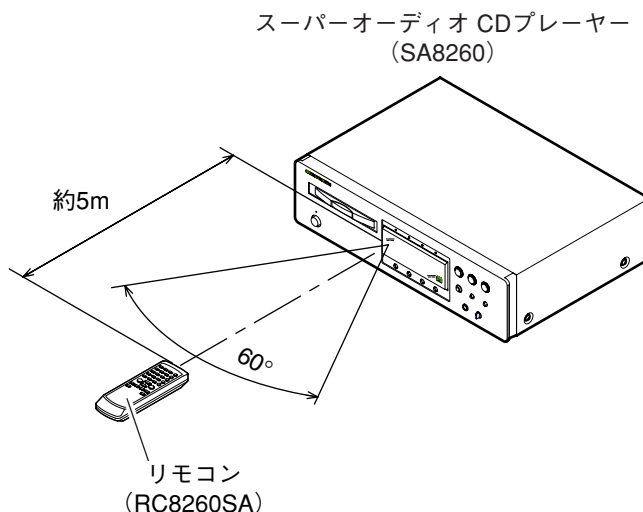
乾電池を誤って使用すると液漏れや破裂などの危険がありますので、次の点について特にご注意ください。

- 乾電池のプラス＋とマイナス－の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には充電式と充電式でないものがあります。乾電池の表示をよく見てご使用ください。

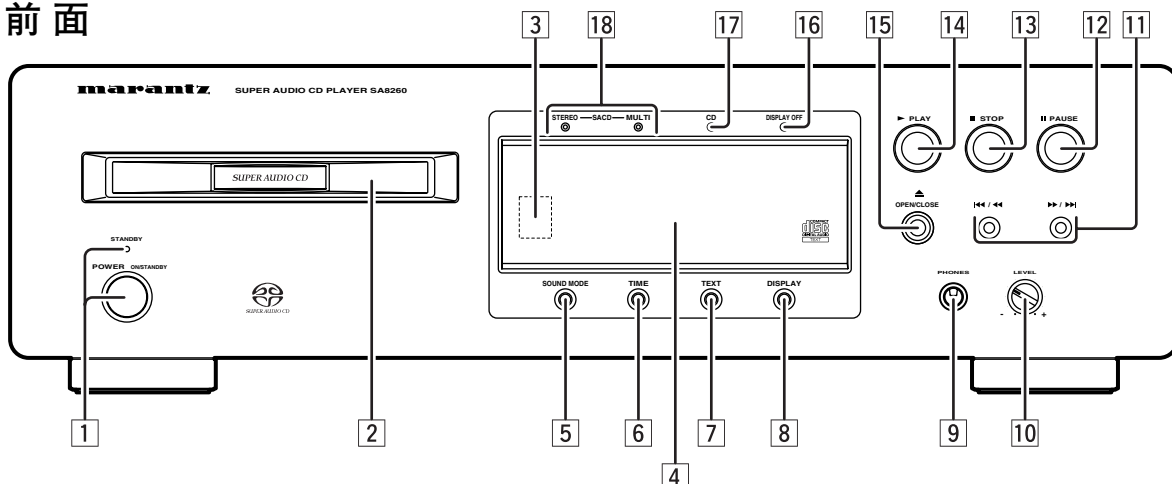
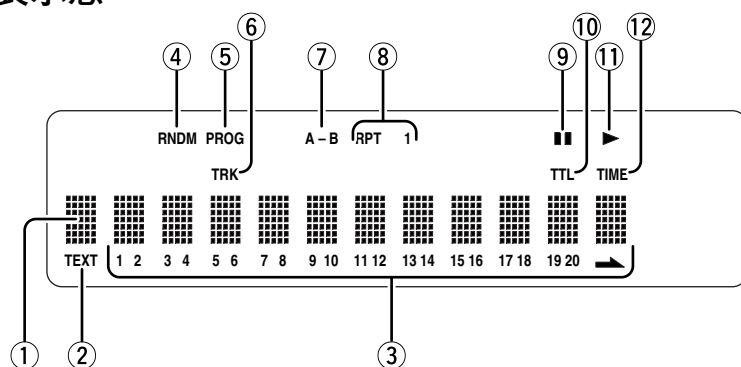
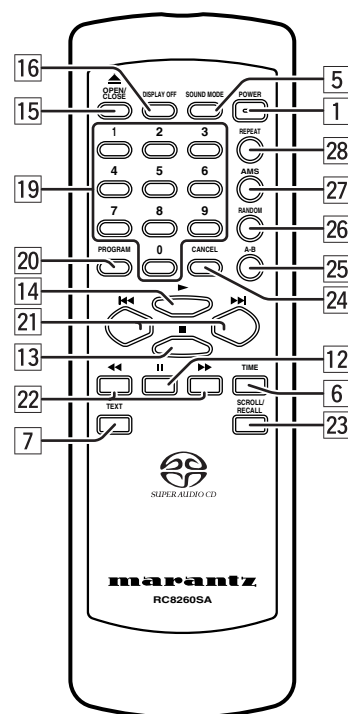
電池の入れ方

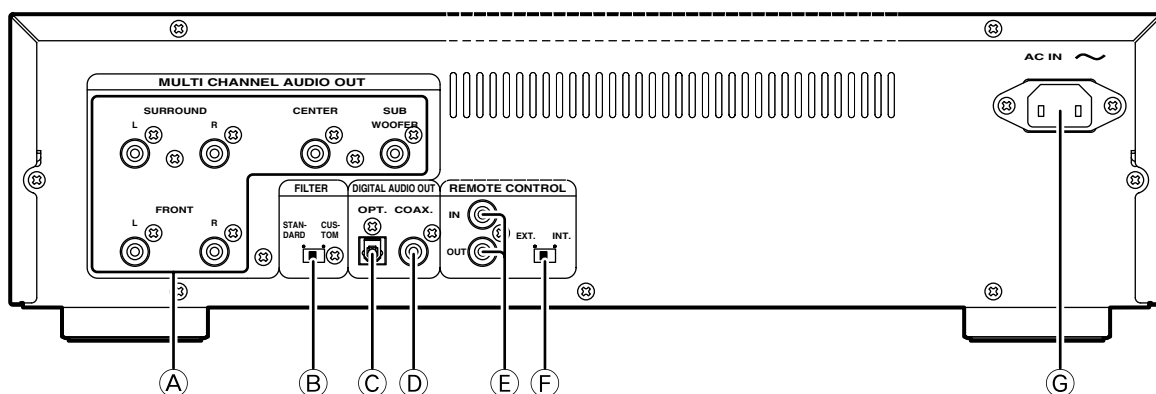
このリモコンの電池の寿命は､普通の使い方で約1年です｡長い間リモコンを使わないときは､電池を取り出しておいてください。また弱ってきた電池は、早めに交換してください。

① 裏ぶたをはずす。

② 電池の ⊕ ⊖ を正しく入れる。

③ カチッと音がするまでしめる。

★リモコンの使用できる範囲

リモコン(RC8260SA)と本機(SA8260)の赤外線受光窓との有効距離は約5m以内です。リモコンの送信窓を受光窓と違う方向に向けたり、送信窓と受光窓の間に障害物があると、操作できないことがありますのでご注意ください。

ご使用の前に

各部の名称と使い方

前 面

表示窓

① メイン表示部
② TEXT ：TEXTインジケーター
③ 1〜20, ➡ ：トラックナンバーインジケーター
④ RNDM : ランダムインジケーター
⑤ PROG : プログラムインジケーター
⑥ TRK : トラックインジケーター
⑦ A-B : A-Bリピートインジケーター
⑧ RPT 1 : リピートインジケーター
⑨ ▮▮ : ポーズインジケーター
⑩ TTL : トータルインジケーター
⑪ ▶ : プレイインジケーター
⑫ TIME : タイムインジケーター

リモコン

後 面

ご使用の前に

■前 面

1 POWER（電源スイッチ）
STANDBY（スタンバイインジケーター）

スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すとスタンバイに入り、スタンバイインジケーターが点灯します。

2 ディスクトレイ

3 REMOTE SENSOR（リモートセンサー）

リモコンからの信号を受ける窓です。

4 表示窓

動作状態を表示します。

5 SOUND MODE（サウンドモードボタン）

スーパーオーディオCDのサウンドモードを選択します。マルチチャンネル／ステレオ／CD（ディスクが対応している場合）（→16ページ）

6 TIME（タイムボタン）

TEXT対応のディスクを使用中、テキスト表示から時間表示に変更する場合に使用します。
また、時間表示を切替えるときに押します。押すたびに“曲の経過時間”→“曲の残り時間”→“総残り時間”→“曲の経過時間”と切替わります。（→16ページ）

7 TEXT（テキストボタン）

TEXT対応のディスクを使用中、メイン表示部を時間表示からテキスト表示に変更するときに押します。
（→20ページ）
TEXT対応のディスクでない場合、メイン表示部に“No Text”と表示します。

8 DISPLAY（ディスプレイボタン）

表示窓の点灯、消灯を切替えます。

9 PHONES ジャック（ヘッドホン）

ヘッドホンプラグを接続する端子です。

10 LEVEL（ヘッドホンレベル）

ヘッドホンの音量を調整します。
※ SACDマルチチャンネルのときは、フロントL/Rが出力されます。

11 ⏮/◀◀、▶▶/⏭（トラックスキップ／サーチボタン）

本体のみトラックスキップボタンとサーチボタンが兼用になっています。

▶▶/⏭ ：ボタンを押した回数だけ次の曲に進みます。また、ボタンを押しつづけるとサーチ（早送り）になります。

⏮/◀◀ ：ボタンを押すと演奏中の曲の頭に戻ります。さらに続けてボタンを押すと、押した回数だけ前の曲に戻ります。また、ボタンを押しつづけるとサーチ（早戻し）になります。

プログラム演奏中は演奏中の曲の中でのみ早戻し、早送りすることができます。

12 ❚❚ PAUSE（ポーズボタン）

演奏を一時停止するときに押します。もう一度押すと再開します。

13 ■ STOP（ストップボタン）

演奏を停止するときに押します。また、プログラムを消すときにも使います。

14 ▶ PLAY（プレイボタン）

演奏を始めるときに押します。

15 ⏏ OPEN/CLOSE（オープンクローズボタン）

このボタンを押すと、ディスクトレイが開きますので、レーベル面を上にしてディスクを置いてください。
もう一度押すと閉まります。

16 DISPLAY OFF（ディスプレイオフインジケーター）

表示窓が消灯されているとき、点灯します。

17 CD（CD インジケーター）

オーディオCDが挿入されているとき、およびハイブリッドSACDが挿入され、サウンドモードがCDのとき、点灯します。

18 SACD STEREO、SACD MULTI（SACDステレオ、SACD マルチチャンネルインジケーター）

スーパーオーディオCDが挿入されているとき、サウンドモードを表示します。

★ 説明書本文中でリモコンのみで操作できる機能があります。ボタン類の説明で本体とリモコンでどちらでも操作できる場合は □ の中にボタン名を表示し、リモコンのみで操作をする場合は ⬭ の中にボタン名を表示しています。

ご使用の前に

■リモコン

1 POWER（電源ボタン）

5 SOUND MODE（サウンドモードボタン）

6 TIME（タイムボタン）

7 TEXT（テキストボタン）

12 ❚❚ PAUSE（ポーズボタン）

13 ■ STOP（ストップボタン）

14 ▶ PLAY（プレイボタン）

15 ⏏ OPEN/CLOSE（オープンクローズボタン）

16 DISPLAY OFF

上記のボタンは本体前面のそれぞれのボタンと同じです。「前面」の各項を参照してください。

19 (0) - (9)（数字ボタン）

ダイレクトに曲番を指定したいときに使用します。

20 (PROGRAM)（プログラムボタン）

プログラム演奏をするときに押します。（→ 18 ページ）

21 ⏮、⏭（トラックスキップボタン）

⏭ ：ボタンを押した回数だけ次の曲に進みます。

⏮ ：ボタンを押すと演奏中の曲の頭に戻ります。さらに続けてボタンを押すと、押した回数だけ前の曲に戻ります。

※ リモコンではサーチボタンは分かれています。22 サーチボタンを使用してください。

22 (◀◀)、(▶▶)（サーチボタン）

(◀◀) ：演奏中、このボタンを押している間だけ早戻しします。

(▶▶) ：演奏中、このボタンを押している間だけ早送りします。

23 (SCROLL/RECALL)

TEXT 対応のディスクで、テキスト表示している場合に、テキストをスクロールさせるときに押します。
また、プログラム演奏でプログラムした曲を確認するときに押します。（→ 19 ページ）

24 (CANCEL)（キャンセルボタン）

プログラムした曲を取り消すときに使います。（→19ページ）

25 (A-B)（A-B リピートボタン）

A-B リピート演奏の開始点と終了点を指定するときに使います。（→17ページ）

26 (RANDOM)（ランダムボタン）

ランダム演奏をするときに押します。（→ 18 ページ）

27 (AMS)（オートマチック ミュージック スキャンボタン）

AMS 演奏をするときに押します。（→ 19 ページ）

28 (REPEAT)（リピートボタン）

リピート演奏をするときに押します。押すたびに“全曲リピート”→“1 曲リピート”→“解除”と切替わります。（→17ページ）

■後 面

Ⓐ MULTI CHANNEL AUDIO OUT（アナログ出力）

FRONT L/R ：フロントスピーカー用出力
SURROUND L/R ：サラウンドスピーカー用出力
CENTER ：センタースピーカー用出力
SUB WOOFER ：サブウーファー用出力

Ⓑ FILTER STANDARD/CUSTOM（フィルター スタンダード/カスタム スイッチ）

接続するアンプやスピーカーによって切り替えます。
詳しくは21ページ「フィルタースイッチについて」を参照してください。

※ スイッチの切り替えはスタンバイ中に行ってください。演奏中にスイッチを切り替えるとノイズが発生する恐れがあります。

Ⓒ DIGITAL OUT OPTICAL（光デジタル出力端子）

演奏中のCD信号をデジタル出力します。光デジタル入力端子のある録音機器やアンプ、D/A コンバーター等と市販の角形光ケーブルで接続します。

※ スーパーオーディオ CD のときは出力されません。

Ⓓ DIGITAL OUT COAXIAL（同軸デジタル出力端子）

演奏中のCD信号をデジタル出力します。同軸デジタル入力端子のある録音機器やアンプ、D/A コンバーター等と市販の同軸ケーブルで接続します。

※ スーパーオーディオ CD のときは出力されません。

Ⓔ REMOTE CONTROL IN/OUT（リモートコントロール入出力端子）

本機を当社のD-BUS対応オーディオ機器と付属のリモート接続コードで接続することにより、外部機器からのリモートコントロールができます。

Ⓕ EXT. / INT.（エクスターナル／インターナル スイッチ）

本機を単独で使用する場合はINT.側に、当社のD-BUS対応のリモートセンサーを搭載しているオーディオ機器とリモート接続コードで外部機器と接続して使用する場合は、EXT.側にセットしてください。

※ **本機を単独で使用する場合にEXTERNAL側にセットしてあるとリモコンが使用できなくなります。**

Ⓖ 電源コード接続端子

付属の電源コードを使用して、家庭用AC100V コンセントに接続してください。

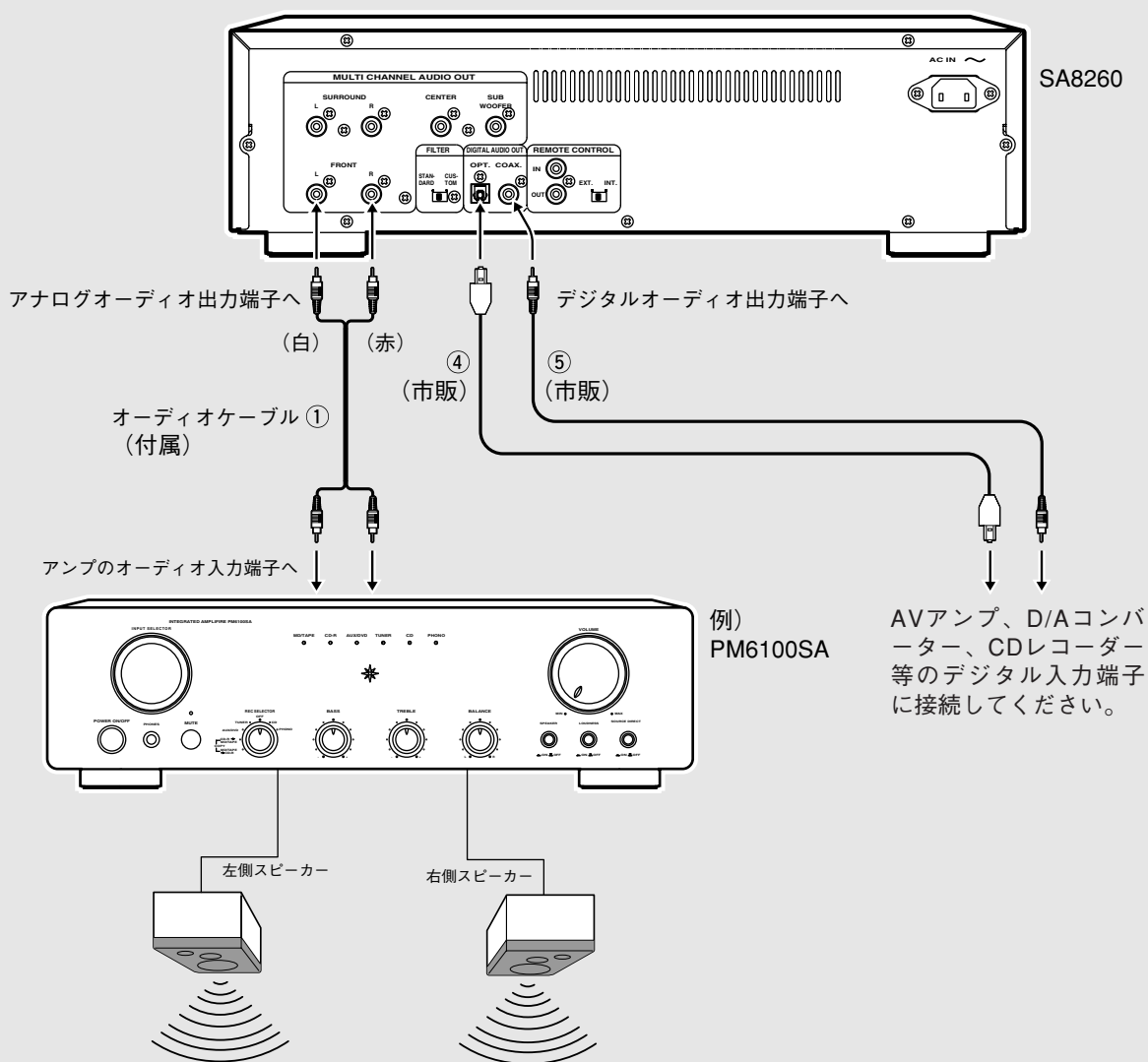
接続方法（オーディオ機器への接続ーアナログ／デジタル）

お使いのアンプ／AV アンプなどのステレオシステムに応じて、プレーヤーの接続方法が異なります。
正しく接続を行うために、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

注意：接続する際、本機のオーディオ出力からお使いのオーディオシステムの PHONO 入力へ接続しないでください。

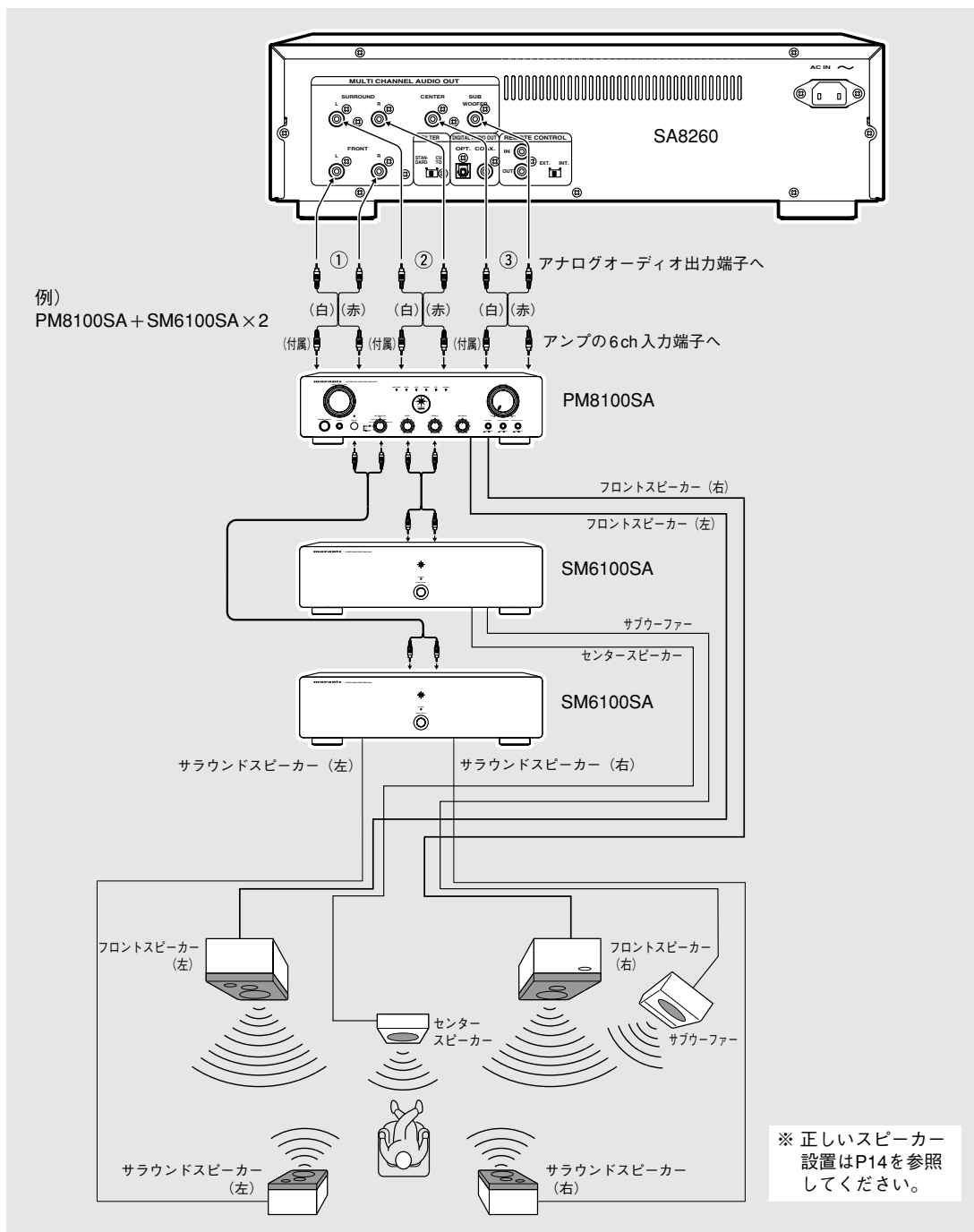
2 チャンネル（アナログ／デジタル）ステレオアンプ／ AV アンプへの接続

1. オーディオケーブル ① を本体のフロントスピーカー用出力とお使いのアンプ､レシーバーまたはステレオシステムのオーディオの対応する入力端子に接続してください。
2. この接続でスーパーオーディオ CD をお聞きになる場合は、SOUND MODE 設定を STEREO にしてください。
3. オプティカルケーブル ④、または同軸ケーブル ⑤ を AV アンプ、D/A コンバーター、CD-R 等のデジタル入力端子に接続してください。

※ DIGITAL AUDIO OUT 端子（OPT.、COAX.）からは、CD のときのみ出力されます。スーパーオーディオ CD のときは出力されません。

接続方法（オーディオ機器への接続ーアナログ）

アナログマルチチャンネルアンプ／AV アンプへの接続

本機は、マルチチャンネルで記録された SACD の再生が可能です。マルチチャンネル再生にする場合は、本体／リモコンの SOUND MODE （サウンド・モード）ボタンで“MULTI”を選択してください。

1 オーディオケーブル ① を本機のフロント出力とお使いのアンプ／AV アンプの対応する入力端子に接続してください。
2 オーディオケーブル ② を本機のサラウンド出力とお使いのアンプ／AV アンプの対応する入力端子に接続してください。
3 オーディオケーブル ③ を本機のセンター出力、サブウーファー出力をお使いのアンプ／AV アンプの対応する入力端子に接続してください。

本機を弊社プリメインアンプ PM8100SA と併せてご使用いただく場合のご注意

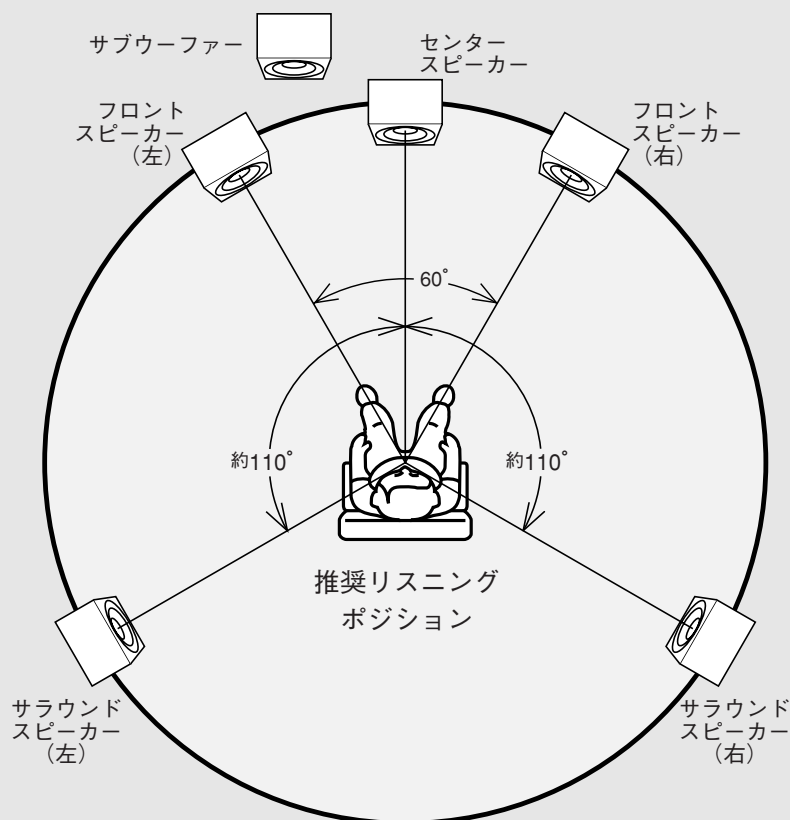
SA8260をPM8100SAのマルチチャンネル(DVD)入力に接続した場合、PM8100SAに付属されているリモートコントロール(RC8100PM)ではSA8260を操作できません。SA8260の付属リモートコントロール(RC8260SA)を使用し、プレイヤーを操作してください。

なおSA8260をPM8100SAのCD入力にステレオ接続した場合は、RC8100PMを使用しSA8260 を操作できます。

接続方法（スピーカー設置）

SACD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置

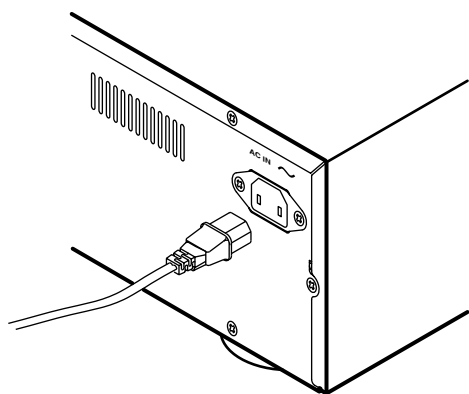
SACD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連盟）が推奨するスピーカーの配置をお勧めします。SACDマルチチャンネルディスクは、この配置の時に最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

スピーカーの数はフロント側３本、リア側２本の同タイプのスピーカー５本が基本です。マルチチャンネルディスクに記録されているチャンネルの数の基本は５チャンネル（3ー６ チャンネルも可能）です。６チャンネル目をサブウーファー用に記録してあるものもあります。チャンネルの数はお聞きになるディスクに表示してあります。スピーカーの大きさが異なる場合はアンプ側にてスピーカーの音量を調整してください。通常の5.1チャンネルサラウンドの配置でもお聞きいただけますが、その場合、最良の SACD マルチチャンネルの臨場感とは異なって聞こえる場合があります。

図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。図の中でサブウーファーは配置方法を図示するための仮位置です。お部屋に合わせてサブウーファーの位置をお選びください。その接続方法は使用するサブウーファーの取扱説明書を参照してください。

操作方法

★ 説明書本文中でリモコンのみで操作できる機能があります。ボタン類の説明で本体とリモコンでどちらでも操作できる場合は □ の中にボタン名を表示し、リモコンのみで操作をする場合は ⬭ の中にボタン名を表示しています。

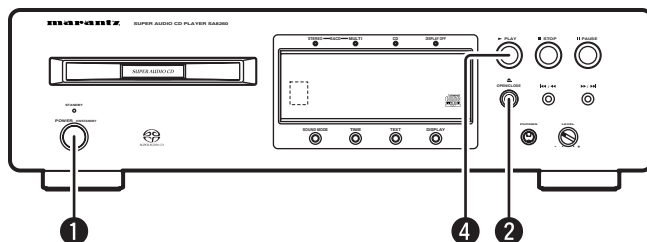
電源コードの接続および電源を入れる

1 付属の電源コードをプレーヤーの背面の電源コード接続端子に差し込んでください。

2 接続したオーディオ機器（アンプ等）の電源スイッチを入れてください。その際オーディオ機器のセレクトボタンは本機と接続した入力を選択してください。

3 電源コードをコンセントに差し込んでください。

● スタンバイ状態になり、STANDBYインジケータが点灯します。

通常の演奏のしかた

■ プレーヤーの再生

❶ **POWER スイッチを押し電源を入れます。**

表示窓

SACD

❷ **▲ OPEN/CLOSE ボタンを押します。**

ディスクトレイがでてきますので、そこにレーベル面を上にして、ディスクをのせます。

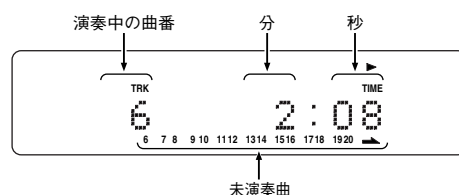
❸ **▲ OPEN/CLOSE ボタンを押します。**

❹ **▶ PLAY ボタンを押します。**

ディスクの種類を自動的に判別し、演奏を始めます。

ディスプレイには曲番·曲の演奏経過時間（分、秒）が表示されます。

※ SACD/CD のハイブリッドディスクの場合、優先的にSACDレイヤーが演奏されます。CDレイヤーを演奏したいときは SOUND MODE ボタンで CD レイヤーに切替えてください。

（例：6曲目、経過時間2分8秒の場合）

最後の曲の演奏が終わると、自動的に止まります。

もう一度最初の曲から演奏するには

▶ PLAY ボタンを押します。

演奏を停止するには

■ STOP ボタンを押します。

ディスクを取り出すには

≜ OPEN/CLOSE ボタンを押してディスクトレイを開き、ディスクを取り出し、もう一度押して閉じます。
本機を使わないとき、ディスクトレイは必ず閉めておいてください。

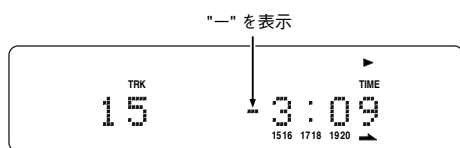
演奏を一時停止するには

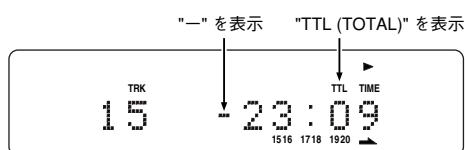
❚❚ PAUSE ボタンを押します。
PAUSE インジケーターが点灯し、演奏はボタンを押した所で一時停止されます。演奏を再開するには、もう一度 ❚❚ PAUSE ボタンを押すか ▶ PLAY ボタンを押します。

時間表示を切替えるには

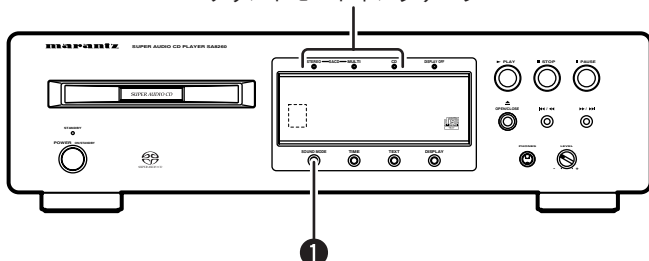
TIME ボタンを押します。
TIME ボタンを押すごとに時間表示は、“曲の経過時間”→“曲の残り時間”→“総残り時間”→“曲の経過時間”の順に変わります。

- **曲の残り時間**

（演奏している所から、その曲の最後までの演奏残量時間）

- **総残り時間**

（演奏している所から、最後の曲までの総演奏残量時間）

※ TEXT 対応のディスクを使用中、TIME ボタンを押すと時間表示が優先され、その後 TEXT 表示は出なくなります。TEXT を見る場合は TEXT ボタンを押してください。

■ サウンドモード（SACD）の切替え

サウンドモードインジケーター

❶ 停止中に SOUND MODE ボタンを押します。

現在のレイヤーまたはエリアが表示窓に表示されます。
（CD、SACD Stereo、SACD Multi）
選択中、サウンドモードインジケーターは点滅します。

SACD Multi

更に SOUND MODE ボタンを押すと再生可能なレイヤーまたはエリアが表示され、約2秒後に新しいレイヤーまたはエリアへ切替わります。

※ レイヤーまたはエリアを切替えると新たにTOCの読み取りをおこないます。

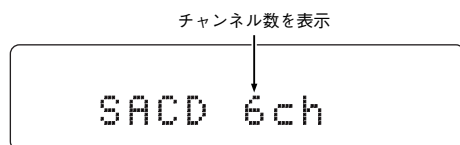
※ CD ディスクおよびステレオのみの SACD ディスクのときは切り替えができません。

※ ハイブリッドSACDディスク（SACDのステレオとマルチチャンネルのエリアがある場合）では次のように切り替わります。

SACDマルチチャンネルエリア→SACDステレオエリア→ CD レイヤー

※ トレイオープン中にサウンドモードを選択することができます。聞きたいレイヤーまたはエリアを選択し、▶ PLAY ボタンを押すとトレイが引き込まれ再生を開始します。

- **SACDマルチチャンネルディスクのチャンネル数の表示**

再生中に SOUND MODE ボタンを1度押すと現在再生中のトラックチャンネル数を表示します。

表示例

6ch： サブウーファーチャンネルを再生します。

5ch： サブウーファーチャンネルを再生しません。
ディスクによっては4ch、3chで録音されているときも5chと表示します。

4ch または 3ch： ディスクがチャンネル表示に対応している場合には、4ch または 3chと表示します。

※ 4ch、3ch等のチャンネルディスクでの信号出力端子はソフト（ディスク）のジャケットや添付の説明書をご覧ください。

操作方法

サーチ／スキップ

■ ダイレクトサーチ(曲番を指定して演奏する)

数字ボタン(0〜9)で曲番を指定します。

3曲目　：　③ を押す。
12曲目　：　① を押し、続けて ② を押します。(約1.5秒以内に押してください。)

始めに押した数字が10の桁になく、1の桁のみの場合は約0.5秒後にサーチが始まります。

数字ボタンを押し間違えたときは

もう一度、正しい数字を押します。

- ディスクにない曲番を指定するとメイン表示部に“No Track”と表示します。
正しい曲番を指定してください。

No Track

■ サーチ

演奏中に本体の [⏮◀◀/◀◀]、[▶▶/▶▶⏭] ボタン、リモコンの (◀◀)、(▶▶) ボタンを押し続けると、サーチを開始します。
聞きたい部分が近づいてきたらボタンを離してください。

※ サーチ中に音声はでません。

■ トラック スキップ（本体 [⏮◀◀/◀◀]、[▶▶/▶▶⏭]、リモコン [⏮◀◀]、[▶▶⏭]）

演奏中の曲より後の曲を聞くには

進めたい曲数分だけ [▶▶⏭] ボタンを押します。

演奏中の曲より前の曲を聞くには

演奏中に [⏮◀◀] ボタンを1度押すとその曲の頭に移ります。
続けて戻したい曲数分だけ [⏮◀◀] ボタンを押します。

- ディスクの最初の曲で [⏮◀◀] ボタンを押すと最後の曲に移り、最後の曲で [▶▶⏭] ボタンを押すと最初の曲に移ります。

リピート演奏

■ 全曲リピート（全曲を繰り返し聞く）

(REPEAT) ボタンを押すと“RPT”インジケーターが点灯し、全曲を繰り返し演奏します。

通常の演奏に戻るには

(REPEAT) ボタンを2回押します。“RPT”インジケーターが消えてリピートモードは解除され、通常の演奏に戻ります。

※ プログラム後に (REPEAT) ボタンを押すと、選択した曲だけを繰り返し演奏します。

■ 1曲リピート（1曲だけを繰り返し聞く）

繰り返し聞きたい曲の演奏中に、(REPEAT) ボタンを2回押します。
“RPT”“1”インジケーターが点灯し、その曲を繰り返し演奏します。

1曲リピートをやめるには

(REPEAT) ボタンを押します。

■ A-Bリピート(指定した部分を繰り返し聞く)

❶ 演奏中、繰り返したい部分の開始点で (A–B) ボタンを押します。“A -”インジケーターが点灯します。
❷ 繰り返したい部分の終わりで、(A–B) ボタンを押します。“B”インジケーターが点灯し、指定した部分(A-B)を繰り返し演奏します。

A-Bリピートを解除するには

(A–B) ボタンを押します。“A-B”インジケーターが消えてA-Bリピートは解除され、通常演奏に戻ります。

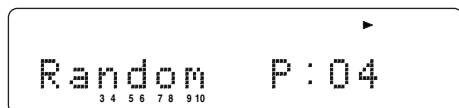
※ ランダム演奏中、プログラム演奏中はA-Bリピートはできません。

操作方法

ランダム演奏

演奏中、または停止中どちらでも (RANDOM) ボタンを押すと、本機が自動的に曲順を並び変えて、全曲を演奏します。

- ランダム演奏中の曲間は約４秒です。

Random P:04

ディスクを置いた状態で、ディスクトレイが開いていても、(RANDOM) ボタンを押すとディスクトレイが閉まり、ランダム演奏が始まります。

ランダム演奏を止めて、通常演奏に戻るには

もう一度 (RANDOM) ボタンを押します。

ランダム演奏中に [▶▶|] ボタンを押すと

押すたびに本機が並べ変えた曲に移り、演奏を始めます。

ランダム演奏中に (◀◀) または (▶▶) ボタンを押すと

演奏中の曲内をサーチします。サーチ動作は前後の曲には移りません。

ランダム演奏を繰り返し聞くには

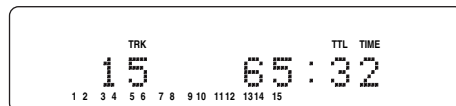
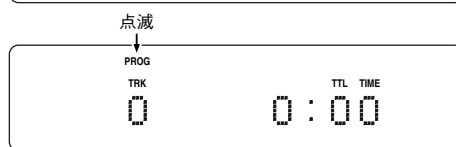
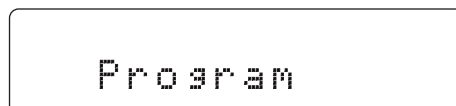
(REPEAT) ボタンを1回押します。毎回違う曲順で演奏を繰り返します。

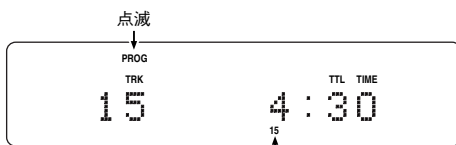
- プログラム後に (RANDOM) ボタンを押すと選択された曲の中でランダム演奏します。

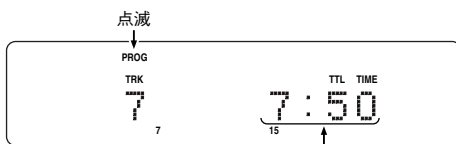
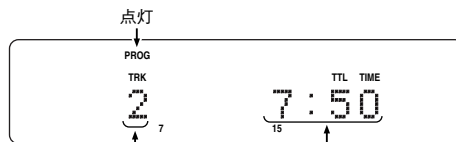
プログラム演奏

■プログラム（好きな曲を好きな順序で聴く）

（例：15曲入りのディスクで、15曲目、7曲目の順にプログラムする場合）

TRK 15 TTL TIME 65:32

❶ 停止状態で (PROG) ボタンを押すと、“PROG” インジケーターが点滅しプログラムモードに入ります。

❷ リモコンの数字ボタンまたは [▶▶|] 、[|◀◀] ボタンでプログラムする曲を選びます。

（例：15曲目を最初に選び、15曲目の演奏時間が4分30秒の場合）

❸ 続いて希望の曲を ❷ の手順を繰り返してプログラムします。最大で 30 曲までプログラムできます。

（例：7曲目を選び、15曲目と7曲目の総演奏時間が7分50秒の場合）

❹ 全てのプログラムが終わったら、(PROG) ボタンまたは [■ STOP] ボタンを押します。
“PROG” インジケーターが点滅から点灯に変わり、プログラムを確定します。

❺ [▶ PLAY] ボタンを押すと、プログラムした順番に演奏します。

※ ❹ の手順を省略して、いきなり [▶ PLAY] ボタンを押してもプログラムした曲の演奏を開始します。

操作方法

プログラム内容を確かめるには

プログラム中またはプログラム演奏中（“PROG”点灯あるいは点滅中）に(SCROLL/RECALL) ボタンを押します。
プログラムした曲が順番に次々に表示されます。

プログラムした曲を取り消すには

❶ 停止中、プログラムがあるとき（“PROG”が点灯中あるいは点滅中）に (SCROLL/RECALL) ボタンを押します。プログラムした曲がプログラムした順番で次々に表示されます。

❷ プログラムを取り消したい曲が表示されたら、すぐに (CANCEL) ボタンを押します。
取り消した曲番のトラックナンバーインジケーターが消えます。

プログラム全体を消すには

プログラム演奏中は、[■ STOP] ボタンを2回押します。停止中は [■ STOP] ボタン、または (CANCEL) ボタンを押します。
[▲ OPEN/CLOSE] ボタンを押してディスクトレイを開けても、プログラムは消えます。

プログラムの追加をする場合

プログラムが残っている場合の停止状態（“PROG”が点灯している状態）で (PROG) ボタンを押します。“PROG”が点滅に変わり、プログラムを最後の曲の後に追加することができます。

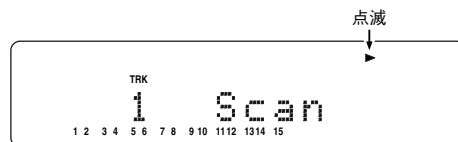
※ **プログラムで曲を選ぶとき、次のことがらに注意してください。**

- 総曲数が10曲以上のディスクで、数字ボタンで1〜9曲目を選ぶ場合（例えば1曲目の後、3曲目をプログラムする場合なら (1) を押した後、およそ 1.5 秒以上たってから (3) を押してください。
- また 10曲目以降を選ぶ場合、例えば 13曲目なら (1) を押した後、およそ 1.5 秒以内に (3) を押してください。
- 総曲数が 9 曲以内のディスクで、数字ボタンで曲を選ぶ場合、例えば 4 曲目の後 5 曲目をプログラムする場合なら (4) を押した後、およそ0.5秒以上たってから (5) を押してください。
- [▶▶|]、[|◀◀] ボタンでプログラムをする場合、希望の曲番が表示されるまでは、0.5 秒以上の間隔をおかずにボタンを押してください。

Q&A

- **プログラムできる曲数は？**
  プログラムでは30曲まで演奏する曲を選ぶことができます。
- **繰り返しプログラム演奏を聞くには？**
  (REPEAT) ボタンを 1 回押してください。“RPT”が点灯し、プログラム演奏が繰り返し聞けます。
- **プログラムした曲を順不同で聞くには？**
  プログラム演奏中、または停止状態で (RANDOM) ボタンを押します。

AMS 演奏

停止中、または演奏中に (AMS) ボタンを押すと PLAY インジケーター“▶”が点滅し、1 曲目からディスク全曲の各冒頭 10 秒間を次々に演奏します。
演奏したい曲を探したいときに便利な機能です。

演奏したい曲が見つかったらもう一度 (AMS) ボタンを押します。PLAY インジケーターが点灯に変わり、その曲以降を通常演奏します。

※ プログラム後に (AMS) ボタンを押すと、選択された曲だけを AMS 演奏します。

操作方法

CD-TEXT 情報の表示について

TEXT 対応ディスクの TEXT 情報は TEXT ボタンを押すことにより、以下の項目を順に表示させることができます。ただし､記録されている情報はディスクにより異なりますので、全ての情報が表示されるとは限りません。
本機では記録されていない項目は自動的に省略し、飛ばして表示します。

● **演奏中**

TEXT ボタンを押すたびに下記の順に表示されます。
演奏中は主に演奏中の曲の情報を表示します。

● **停止状態**

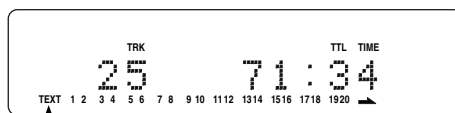
TEXT ボタンを押すたびに下記の順に表示されます。

--Title表示中に ▶ PLAY ボタンを押すと､そのトラックの再生を開始します。
表示文字数は最大 64 文字です。

TEXT について

TEXT とは従来の音楽 CD に演奏者名、アルバム名、曲名などの文字情報を記録した新しいタイプの音楽ディスクです。下図のようなロゴが付いたCD やほとんどのSACD が対応しています。

これらの文字情報は、従来の音楽 CD では使用されていなかった部分に記録されています。従って TEXT の記録されたディスクは、既存の CD プレーヤーでは今までどうりに再生でき、本機のような TEXT 対応のプレーヤーではそれらの文字情報を見ることができます。
本機ではディスクがTEXT対応であるかどうかを自動的に判別して表示窓に表示します。

本体表示窓

読み込んだディスクがTEXT対応の場合に点灯

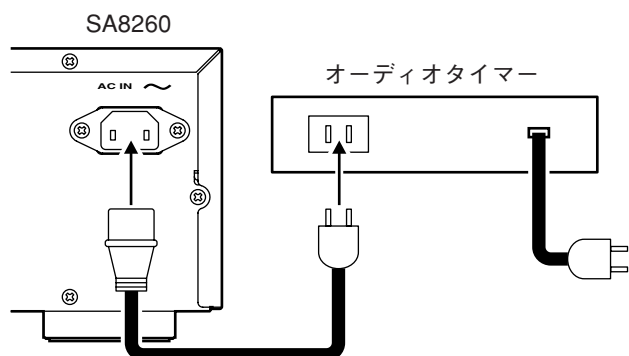
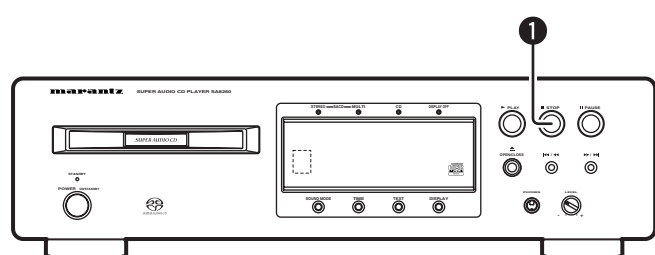
本体または付属のリモコンにより表示窓にアルバム名､曲名、演奏者名、作詞者名、作曲者名、編曲者名を表示させることが可能です。ただし、これらの情報はディスクによりすべてが記録されていない場合があります。

- これらの情報を本機では一度に12文字を表示することが可能で､それ以上の文字情報がディスクに入っている場合は､表示窓に向かって右から左にスクロール* 表示します。
  * 文字を送りながら表示させることをスクロールといいます。
- 本機ではアルファベット、記号、数字のみに対応しており、漢字、ひらがな、カタカナは表示されません。（文字情報が漢字､ひらがな､カタカナのみのときは何も表示されません。）

操作方法

タイマープレイ

本機では市販の外部オーディオタイマーと連動したタイマープレイができます。
図のように本機の電源コードをオーディオタイマーの電源ソケットに差し込んでください。

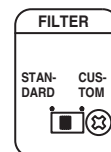
※ オーディオタイマーへの接続､および操作についてはオーディオタイマーの取扱説明書を参照してください。

タイマープレイの設定

❶ 停止中､ ■ STOP ボタンを２秒間押します。
タイマープレイがオンになり表示窓に“Timer On”と表示します。

```
Timer On
```

※ タイマープレイをオフにする場合も ■ STOP ボタンを２秒間押します。（“Timer Off”と表示します。）

❷ 再生するディスクを挿入しておき､POWER SWを押しスタンバイにします。

※ プログラム演奏でプログラムしておくと、プログラム再生でタイマープレイにすることができます。

フィルタースイッチについて

スーパーオーディオCDは可聴帯域を超える約100kHzという広い再生帯域をもつため、その信号には従来CDにない超高域成分が含まれています。従来のアンプではこれらの超高域成分を含んだ信号の再生を想定していないことが多く、スーパーオーディオCDの信号をそのまま出力すると、ノイズを発生したり、アンプの保護回路が働いたり、スピーカーを破損したりする可能性があります。
これらのことを防ぐために本機には超高域信号成分を減衰するフィルターが搭載されて（STANDARD）おり、事故防止のため工場出荷時にはSTANDARD側に設定されています。
スーパーオーディオCDに対応した新世代のアンプと接続される場合は、スイッチ横にあるネジを緩めてプロテクターを解除し、スイッチをCUSTOM側に設定して使用しますと、より周波数レンジの広い演奏をお楽しみ頂けます。

※ 通常のアンプで使用する場合はスイッチをSTANDARD側で使用してください｡アンプやスピーカーの故障の原因となることがあります。

※ スーパーオーディオCDに対応したアンプと接続されている場合でも､テープデッキなどにスーパーオーディオCDの音声を録音されるときはスイッチをSTANDARD側に切り替えてください。

※ スイッチの切り替えはスタンバイ中に行ってください。
演奏中にスイッチを切り替えるとノイズが発生する恐れがあります。

故障とお考えになる前に

故障かな？と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われていることがあります。下記の項目をチェックして直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの日本マランツ（株）各営業所、又は当社サービスセンターにご相談ください。

★ ディスクが回らない

1. 電源コードは正しく接続されていますか。
2. POWERスイッチはONになっていますか。
3. ディスクが正しい位置に入っていますか。
4. ディスクが裏表さかさまに入っていませんか。
（ディスクのレーベル面が上になっていますか。）
5. ディスクに汚れがありませんか。
6. ディスクに傷がついていませんか。
7. ディスクが反ってませんか。

★ ディスクは回るが音が出ない

1. アンプ・スピーカーの接続は正しいですか。
2. アンプの電源スイッチはONになっていますか。
3. アンプのファンクション又はセレクタースイッチが“CD”または“AUX”等（SA8260をあなたが接続したところ）に切り替えられていますか。
4. アンプのボリュームが最小になっていませんか。

★ ディスクが途中で回らなくなり止まる、または音が途切れたり雑音が出る

1. ディスクが汚れていませんか。
2. ディスクに傷がついていませんか。
3. ディスクが反ってませんか。

※ CD-R/CD-RWディスクのとき、書き込まれた状態が悪かったり、ディスク自体の品質が悪い場合このような症状が出る可能性があります。

★ リモコン操作ができない

1. リモコン（RC8260SA）の送信窓が、プレーヤー（SA8260）の受光窓に正しく向けられていますか。
また、この間に何か障害物はありませんか。
2. リモコンの電池が消耗していませんか。
3. プレーヤーの受光窓に他の強い光が当たっていませんか。

★ スーパーオーディオCDが再生できない

1. ディスクに傷か汚れ、反りがありませんか。
2. アンプのインプットセレクターがデジタルになっていませんか。（スーパーオーディオCDのときは、DIGITAL AUDIO OUTは出力されません。）

★ 再生されないチャンネルがある（スーパーオーディオCDマルチチャンネル）

1. ディスクのチャンネル数を確認してください。（→16ページ）

★ CD-R/CD-RWディスクが再生できない

1. ディスクが裏表さかさまに入っていませんか。
2. 正しくファイナライズされ（TOCが書き込まれ）ていますか。
3. 記録されている情報が音楽用（CD-DA）フォーマットですか。

本機を弊社プリメインアンプPM8100SAと併せてご使用いただく場合のご注意

SA8260をPM8100SAのマルチチャンネル（DVD）入力に接続した場合、PM8100SAに付属されているリモートコントロール（RC8100PM）ではSA8260を操作できません。SA8260の付属リモートコントロール（RC8260SA）を使用し、プレイヤーを操作してください。
なおSA8260をPM8100SAのCD入力にステレオ接続した場合は、RC8100PMを使用しSA8260を操作できます。

仕 様

	スーパーオーディオCD	CD
オーディオ特性		
アナログ出力		
チャンネル	6チャンネル（最大）	2チャンネル
再生周波数範囲	2Hz — 100kHz	2Hz — 20kHz
周波数特性	2Hz — 50kHz (-3dB)	2Hz — 20kHz
ダイナミックレンジ	113dB	100dB以上
高調波歪率（1kHz）	0.0015%	0.0020%
ワウフラッター	水晶精度	水晶精度
出力レベル	2.2V	2.2V
デジタル出力		
ピンジャック	——	0.5Vp-p（75Ω）
角型光コネクター（光出力）	——	-19dBm
ヘッドフォン出力	50mW / 32Ω（Vol. MAX）	50mW / 32Ω（Vol. MAX）
光学読み取り方式		
レーザー	AlGaAs	AlGaAs
波長	650nm	780nm
信号方式	1ビットDSD	16ビット・リニアPCM
サンプリング周波数	2.8224MHz	44.1kHz

電源部

電源 .... AC 100V 50/60Hz
消費電力（電気用品安全法） 28W
待機時消費電力 .... ＜0.8W

キャビネット・その他

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き） .... 440×124×307mm
質量 7.7kg
許容動作温度 .... ＋5℃ 〜 ＋35℃
許容動作湿度 .... 5〜90%（結露のないこと）

付属品

- リモコン（RC8260SA） 1
  外形寸法（幅×高さ×奥行き） .... 48.5×21.5×152.5mm
  質量（電池なし） 60g
- 単三乾電池（SUM-3） 2個
- 電源コード 1本
- オーディオケーブル 3組
- リモート接続ケーブル 1本
- 取扱説明書（本書） 1冊
- 保証書 1枚

本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

その他

お手入れ

- セットが汚れたときは柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは食器用洗剤を５〜６倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり,光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり,長時間接触させたままにしておきますと変質したり,塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

ステレオ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

著作権について

- 放送や、レコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カセット、CDなど）、音楽作品は音楽の歌詞、楽曲などと同じく著作権法により保護されています。
- したがって、それから録音したテープを売ったり、譲ったり、配ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の承諾が必要です。
- 使用条件は場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては「日本音楽著作権協会」（JASRAC）の本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より１年間です。
   お買い上げ販売店又は弊社営業所で保証記載事項に基づき「無料修理」いたします。
3. 保証期間経過後の修理。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低８年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または取扱説明書の裏面に記載の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度”故障とお考えになる前に”をご参照の上よくお調べください。それでも直らないときは、必ず電源プラグを抜いてから、次の処置をしてください。

ご連絡いただきたい内容

1）	品名	**スーパーオーディオCDプレーヤー**
2）	品番	**SA8260**
3）	お買い上げ日	年　月　日
4）	故障の状況	（できるだけ具体的に）
5）	ご住所	
6）	お名前	
7）	電話番号	

その他

marantz®

日本マランツお客様ご相談センター

〒113-0034　東京都文京区湯島 3-16-11

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

○ 修理に関しましては下記サービスセンター、又は別紙営業所一覧の各営業所で承っております。

首都圏サービスセンター　〒228-8505　神奈川県相模原市相模大野7-35-1　☎（042）748-0762

大阪サービスセンター　〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場2-1-10 船場モンブランビル5F　☎（06）6337-6699

日本マランツ株式会社

本社　〒228-8505　神奈川県相模原市相模大野7-35-1

国内営業部　〒113-0034　東京都文京区湯島 3-16-11

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.co.jp

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

Printed in Japan

03/2004　01AK851112　ecms-g